ふくしまNPO 経営ゼミ 報告

プロフィール

氏名

特定非営利活動法人みんなのひろば

理事長

齋藤　大介

略歴

学生時代は虐待と触法少年をテーマとして学び、児童養護施設、高等学校、障害者職業センターでの勤務を経て、平成16年に生まれ育った伊達市に当法人フリースクールを設立、平成29年には高等部開校、放課後等デイサービス事業所開設をする。現場最優先と考え、経営を後回しにしていたことを反省し、当ゼミへの参加を決意した。

ゼミの成果報告

平成16年に当法人を設立し、震災までは私一人でフリースクールを運営してきた。その後、多くのご支援や助成金等を活用し、スタッフ2名を雇用。平成29年に放課後等デイサービスを立ち上げることで新たに3名を雇用し、6人体制にするところまでは漕ぎつけたのだが、設立からこれまで、経営という視点で自団体を考えることはできずにいた。今回、このゼミへのお誘いをいただき、「楽しそう」とは思ったものの、正直、何をするのかは全く分からず、初めは緊張と戸惑いが大きかった。

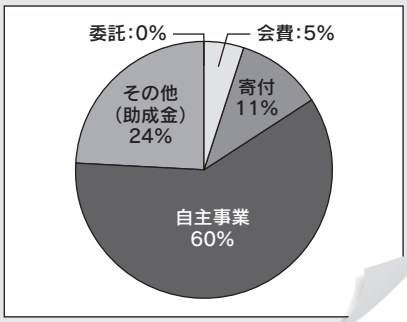
このふくしまNPO経営ゼミは、ゼミという形式上、事務局主導ではなく、話し合う内容、今後するべき予定など、我々 5名が主体的に意見を出していかなければ何も動かない。6月に初めて顔合わせをして、7月、8月と集まる機会はあるものの、まだゼミメンバー同士の信頼関係もない状況では何も前に進まなかった。そこで「まずはお互いを知り合おう」と、10月に合宿を行い、その合宿のテーマも自分をプレゼンするというもの。併せて、それぞれの団体を見学することも決めた。それまで、お互いの総会資料などを見せ合い、それぞれの課題を話し合っていたのだが、具体的にイメージすることができずにいた。この合宿が良いきっかけとなり、また互いの団体を実際に見学することで、このゼミで一緒に何を学べばいいのか、今後、それぞれの法人の運営をどうしていきたいのかが少しずつ見えるようになった。そこからの半年は、あっという間に過ぎた。

この一年を振り返ると、学んだこと一つひとつは、私にとって大きな刺激となるものばかりで、まずは私自身に変化が生まれた。現在では5名を雇用する立場であり、そのスタッフの給料を少しずつでも高くできるような法人経営を考えなければならないこと、併せて、そのスタッフの人材育成と、やる気をもって長く働いてもらえるような職場づくり、そのための理事会の活性化、当法人のミッションの再確認と、具体的行動案を踏まえた中長期計画作成の必要性、行政や関係機関・支援者・賛同者との強いつながり、広報の重要性などなど。私は「代表」や「理事長」といった肩書ではなく、「経営者なのだ」という意識が強く芽生えたのだ。そして、その学んだことを理事会やスタッフミーティングで伝えることにより、理事やスタッフと話す内容にも変化が生まれ、これまでにはない視点での話し合いの場が増えている。私のふくしまNPO経営ゼミへの参加が、法人全体を変えようとしているのを肌で感じている。

先日、このゼミの三県合同修了報告会があり、修了証書をいただいた。終わってしまった寂しさもあるが、ゼミで学んだことをこれから実践していかなければ！という、また新たなスタートといった気持ちで、今は全身に力がみなぎっているのだ。

団体のプロフィール（2016年度）

団 体 名／特定非営利活動法人みんなのひろば
運営体制／役員：8名（理事6名、監事2名）
スタッフ：5名(常勤有給：5名)
収入総額／19,365,418円（平成28年度決算より）
収入内訳(100%)／委　　託：　0%
会　　費：　5%
寄　　付：　11%
自主事業：　60%
その他（助成金）：24%



ふくしまNPO 経営ゼミ 報告

プロフィール

氏名

特定非営利活動法人えんじょいらいふ福祉会

理事

斎藤　尚也

略歴

就労継続支援B型事業所　アートさをり　所長

プロダーツプレイヤー

ゼミの成果報告

この【NPO経営ゼミ】は主体性を持って学ぶもので、他の研修などとは違う形式で行うものです。と初めに説明がありましたが、正直、働くようになってからは話を聞くだけや講義形式の研修が多く、なかなかイメージがわきませんでした。そんな中、選ばれたゼミ生が集められ自己紹介などをしてゼミがスタートしました。それぞれ活動分野が違い、物の考え方やとらえ方が違うので、他のゼミ生の意見を聞くだけでもプラスになるのではないかと思いました。

実際に各団体の課題出しでは、活動分野に違いはあれど似たような課題が多くあがりました。まだ始まったばかりでお互いぎこちなく、深い話はできてないものの、他の団体も同じ問題を抱えているのだと少し安心しました。その後、3県合同合宿や講演、福島ゼミのみでの合宿、お互いの団体訪問を通して、時間はかかりましたがだんだんと何でも言い合える関係性を築くことができました。そこからは意見が沢山出るようになり、ゼミの進むスピードが格段にアップしていきました。【人材育成】【巻き込む力】などテーマも決まり、メインでもあるフィールドワークに向けて、各自が視察先と交渉を行いました。計6カ所の視察先は各自が選んだので、自分では選ばない法人もあり、様々な視点からの話を聞くことができました。

ゼミでの講演やフィールドワークで私が学んだことは、大きく2つあります。1つ目は【自組織がNPO法人である必要がな

い】ということです。フィールドワーク等で改めてNPOについて学び、各法人がNPOだからこそできる事やNPOの強みを活かした取り組みをしているなか、自組織にはそれが無い事に気付きました。(自組織が法人化する際にNPOを選んだ明確な理由が無かった事が関係していると思います)そこで今後、事業拡大などを考えた時に社会福祉法人など別の法人にすることを視野に入れて活動をしていきたいと思います。次に2つ目は【人を育てるのではなく、人が育つ環境を作る】ということです。人材育成について悩み、どのように育てれば良いのだろうとばかり考えていました。育てようとすればするほど「やらされている感」を抱いてしまい逆効果でした。いかに本人のやる気を引き出すかが重要で、その為には信頼関係を築きお互いを認め合う事が必要だと学びました。ゼミ終了後から職員に対しての接し方を変え、やる気を引き出せるように取り組んでいるところです。

また、今回学んだ巻き込む力等を活かしてゼミ生で【KITAKATAアートフェス】を6月に開催予定です。今後、2期生3期生とも続けて開催していけるよう、協力し合い取り組んでいきます。

1年間、本当にありがとうございました。

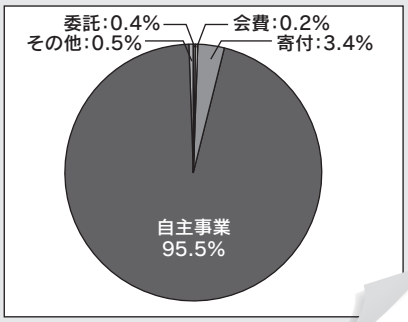
団体のプロフィール(2016年度)

団 体 名／特定非営利活動法人
えんじょいらいふ福祉会

運営体制／役員:4名
スタッフ:8名(常勤有給:5名、その他:3名)

収入総額／42,436,644円

収入内訳(100%)／委　　託: 0.4%
会　　費: 0.2%
寄　　付: 3.4%
自主事業:95.5%
そ の 他: 0.5%



ふくしまNPO 経営ゼミ 報告

プロフィール

氏名

特定非営利活動法人ココネット・マム

代表理事

首藤　亜希子

略歴

自分の出産、育児を通して、親も子も輝ける子育て環境作りたいと思い平成15年9月学童保育室を始めたのが現在の活動を始めたきっかけ。家族は夫と18歳と9歳の息子、義母。福島県石川町在住。

ゼミの成果報告

ゼミに1年間参加させていただいて得たものが2つあります。

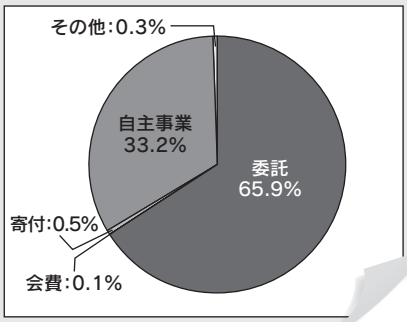
1つ目は「人との出会い」です。これまでの研修や視察では、子育て支援関係者との関りがほとんどでした。しかし今回のゼミでは参加者、事務局スタッフ共にこれまで深く関わったことのない活動分野の方ばかり。活動内容を知るだけでも勉強になりましたが、少人数で1年という期間顔を合わせる中で、活動内容、運営の方法、ビジョンなどについて、建前ではなく本音の話を聞くことができ、とても勉強になりました。誰かのために良い活動がしたいという思いは同じでも、モチベーションの上げ方、決断の基準などは様々で、共感したり、疑問を持ったりしながら常に自分の団体に当てはめて考えることができ大変参考になりました。他のメンバーが運営スタッフとして力もあり人としてもそれぞれに魅力的であることも、より多くの学びが得られた理由の1つだったと思います。ゼミは毎回本当に楽しかったです。この先も団体内では話せない悩みを相談したり、愚痴もきいてもらえる仲間ができたことは大きな財産となりました。

2つ目は「意識の変化」です。ゼミの講座で、事業と経営の違いや経営者の

視点について学んだ時、「自分には経営という視点が全くない、活動を続けてこれたのは、ただただ多くの人の支えと運によってなのだ」という大きな気づきがありました。「現場スタッフとしての発想」を捨てられず、経営について考える人がいない中、一緒に活動してきてくれた仲間には感謝しかありません。当団体のミッション「子育てしながら親も子も笑顔で充実した生活ができる環境をつくる」を達成することを第一に、将来の展望を持ち、計画をたて、継続して活動できる組織力を持った団体にすることが私のやるべきことだと腹に落ちました。そしてこの1年間ゼミで学びながら、できることを改革していきました。うまくいくこともあったし、スタッフが混乱することもありました。でも私自身が前とは少し変わったこと、これまでしてこなかった「経営」の話を団体の中で議論することで、これまで出なかった意見が出るようになったし、自ら動くスタッフが増えてきました。明らかにプラスの変化が生まれています。まだまだ足りないところの方が多いのですが、人を変えるのではなく自分が変わることで周りのスタッフが変わることを身をもって感じることができています。このような機会をいただき本当に感謝しています。

団体のプロフィール（2016年度）

団 体 名／特定非営利活動法人ココネット・マム
運営体制／役員：8名
スタッフ：25名(常勤有給：7名、その他：約20名)
収入総額／23,600,000円
収入内訳(100%)／委　　託：65.9%
会　　費：0.1%
寄　　付：0.5%
自主事業：33.2%
そ の 他：0.3%



ふくしまNPO 経営ゼミ 報告

プロフィール

氏名

特定非営利活動法人チームふくしま

理事長

半田　真仁

略歴

チームふくしま理事長。メンバーは県内の経営者、職員、会社員等の有志で構成。2011年3月に発生した東日本大震災後、「福島ひまわり里親プロジェクト」を同年5月にスタート。プロジェクトは、ひまわりの種を全国の「里親」に育ててもらい、その種を福島県に戻してもらうことで絆を繋ぐ。福島の復興に希望の花を咲かせるため活動を続けています。

ゼミの成果報告

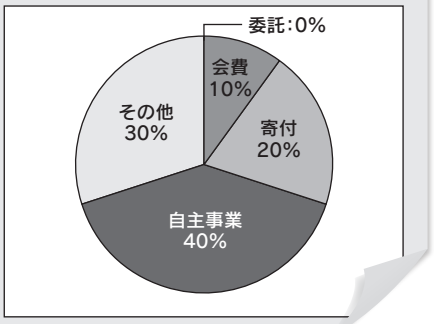
●日本NPOセンター田尻様のアドバイスにより新しい御提案をいただいたことによりゴッホのひまわりのプロジェクトを遂行することができました。

●ふくしまNPOネットワークセンター深澤顧問のアドバイスのおかげさまで事業承継のヒントをいただきました。

●普段の経営において選択することはないことがゼミの中で行動させていただき新しい価値観の学びをさせていただきました。

団体のプロフィール（2016年度）

団 体 名／特定非営利活動法人チームふくしま
運営体制／役員：11名
　　スタッフ：4名
収入総額／10,000,000円
収入内訳(100%)／委　　託：0%
　　会　　費：10%
　　寄　　付：20%
　　自主事業：40%
　　そ の 他：30%



ふくしまNPO 経営ゼミ 報告

プロフィール

氏名

特定非営利活動法人喜多方市民活動サポートネットワーク

事務局長

渡部　美加

略歴

専門学校卒業後、歯科医院に勤務。二人目の出産を機に退職。その後、地元喜多方で人とのふれ合いがある仕事をしたいと思っていたところ、縁あって現在の団体へ。NPOも中間支援も何も知らなかったが、勉強の機会をいただくと共に、NPOに関わるたくさんの熱い思いを持った方々の影響を受け、現在事務局長として団体が一歩前進するためにがんばっています。

ゼミの成果報告

私どもの団体は、委託と指定管理の2つの柱でこれまで安定した収入を得てきました。それは今後も続くだろうと…。なので、市の予算に合わせた単年度の計画のみで活動を続けていました。それから、どんなビジョン・ミッションを掲げた団体なのかということも、立ち上げに関わった理事・職員がほぼいない状況で、みんな何となくという感じでした。そしてこういった状態に、私を含め危機感を持つ人はいませんでした。

事務局長という立場になり2年が経ちましたが、これまでに経営ということをちゃんと考えたことがなかったように思います。なので、このゼミで自分たちの学びたいことをと言われても何を学んでいいのかさっぱりわかりませんでしたが、1年間参加してみて、学び、気づくことがたくさんありました。

初めてのパソコン教室

夏休み宿題お助け広場

「経営」とは組織をつぶさないこと、継続成長させること。現状は委託事業がメインで、それなりの収入はあるものの、期間があり、実は不安定だということから目を背けていました。委託収入だけに頼らず自立した運営ができるよう、自分たちらしい、目的に沿った事業をやっていかなければいけないと思うようになりました。でも、そもそもこの団体の目指すものって何だろう？何のためにできた団体なんだろう？中間支援という成果の見えにくい活動だからこそ、思いはきちんと共有しておかなければいけない。そして目指すべき方向に向かって長期的に考えていくことが大事なんだということを教えていただきました。また、進んでいる方向がわからなくなってしまったときにこそ原点に戻るという

意味で、中長期計画が大事だということを学びました。これまではまったく立ててこなかったのでブレ・迷いがあったのかなと。この1本の道筋があると、今後組織に関わる人が変わっても組織としての基盤はゆるがないものになっていくんだと思いました。そのためには今、じっくり時間をかけてみんなで話し合う機会をつくらなければと思います。

市民活動フェスティバル

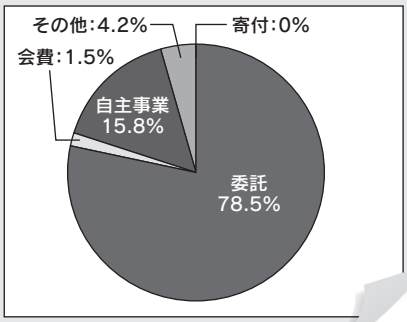
ゼミでは座学だけでなく、フィールドワークでさまざまな地域の団体を訪問させていただきました。お話を聞かせていただくと「自分のできることをやる、できないことはできる人にやってもらう」という考えの方が多かったように思いました。適材適所。自分ひとりで抱え込むのではなく、得意な人が得意なことを活かして、自分事として仕事に取り組む。そうすることで“やらされてる感”がなく、仕事に誇りと愛着を持って働いていけるんだなと感じました。そんなとき、事務局長として私がやることは、団体の思いをしっかりと発信し続けることだと思いました。また、さまざまな関係者に思いを伝え、共有する、巻き込んでいくアイデアなど、たくさんのことを持ち帰ることができました。

毎回のゼミで学んだことを団体に持ち帰り実践しようとしてきましたが、そう簡単にはいかないものです。それでも、続けていくことでほんの少しずつでも変化が起きてくることを期待したいと思います。

最後に、このゼミで得た一番の財産は、ともに学んだゼミ生、事務局の皆さん、講師の先生との出会いだったと思います。地域、分野が違うからこそ話せる、気付ける、頼りになる存在となりました。これで終わりではなく、今年度一緒に事業を立ち上げることになり、今後も繋がっていけることがとてもうれしく思います。

情報交換会

このような機会をいただけたこと、本当に感謝しております。一年間ありがとうございました。

団体のプロフィール（2016年度）

団 体 名／特定非営利活動法人
喜多方市民活動サポートネットワーク
運営体制／役員：13名
スタッフ：5名(常勤有給：5名)
収入総額／12,000,616円
収入内訳(100%)／委　　託：78.5%
会　　費：1.5%
寄　　付：0%
自主事業：15.8%
そ の 他：4.2%